

房総の文化財

— 創刊号 —

平成4年9月1日

財団法人 千葉県文化財センター

千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811(代)

FAX 043-422-8850



▲木更津市芝野遺跡

県内最古の水田

木更津市^{しももつだ}下望陀で今から約1900年前の弥生時代後期の水田跡が発見されました。当地の字名から「芝野遺跡」と名づけられました。水田は^{おひつ}小櫃川のすぐ北側につくられており、現在の水田のように整然と区画はされていません。大中小さまざまな区画の水田が地形に合わせて扇形にひろがっています。^{あぜ}畦道や水路、^{みづた}水溜めをつくるなど当時の人々の工夫の跡がみられます。水田のそばには、^{つぼ}壺や^{かま}甕と

いった当時の生活用具が一行に並んで出土しています。人々が水田に向かって豊作を祈ったものでしょうか。

木更津市は東京湾に面して東海地方との交流がさかんであったことから、西方の稲作文化をいち早くとり入れたと思われます。周辺にも水田はひろがっており、すでに弥生時代のこの地域では、広い範囲で水田耕作を行っていたことがうかがわれます。(加藤修司)

発刊に当たって



千葉県は、自然環境にも恵まれ、数多くの貴重な埋蔵文化財が残されています。その反面、全国でも有数な大規模開発が推進されている県でもあり、それに伴って、毎年多くの遺跡の発掘調査が実施されています。

当文化財センターは、国や県等の公共事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を主な業務として、昭和49年11月に県教育委員会の認可を得て財団法人として発足しました。以来、2,000か所近くの遺跡を調査し、その成果は、私たち祖先の歴史を知るうえで、大きな役割を果たしているものと自負しております。

ところで、当文化財センターも設立以来20

発刊に寄せて

千葉県では、全国に先駆けて埋蔵文化財の発掘調査を主な業務とする財団法人千葉県文化財センターを昭和49年11月に設立しました。文化財センターは設立以来各種開発に係る発掘調査を数多く実施し、その成果は県内外から高い評価を得ているところであります。また、県民の皆様に対する文化財普及事業の一環として、最新の調査成果を踏まえた『房総考古学ライブラリー』を時代順に刊行するとともに、発掘現場における現地説明会等を実施するなど、ややもすると難解になりがちな文化財を身近なものとするよう努めていただいているところであります。

近年邪馬台国論争に一石を投じた佐賀県吉野ヶ里遺跡、大陸の影響が強く認められる武具・馬具等の出土した奈良県藤ノ木古墳など

財団法人千葉県文化財センター
理事長 奥山 浩
(千葉県教育委員会教育長)

年になろうとしています。この間の調査活動とその学問的成果に比して、業務内容等については、いまだ、一般県民に広く周知されていないのが現状であります。

このため、本年度からは、これまで以上に埋蔵文化財普及事業を充実させるべく各種の活動・行事等を予定しておりますが、その一環として、当文化財センターの業務内容や埋蔵文化財保護の重要性を多くの皆様方により深くご理解いただけるよう広報紙『房総の文化財』を発刊することにいたしました。

この広報紙は、広く県民の皆様方に御利用していただけるよう多くの方々の御協力を得て、より充実した内容にしていきたいと考えております。今後とも御指導と御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

千葉県教育庁生涯学習部
文化課長 白石 竹雄

貴重な発掘調査が相次ぎ、新たな考古学ブームを呈している感もあります。折しも週休2日制が論議され、生涯学習時代が到来しつつあります。この時期、文化財センターから広報紙が発行されることは、誠にタイムリーな企画といえましょう。

この広報紙は、埋蔵文化財保護の大切さを普及することを目的として、最新の考古学や文化財センターの業務等埋蔵文化財に関するさまざまな情報を公開するためのものです。

多くの方々が、遺跡の現地探訪の手掛かりとして、また、考古学情報を知る資料としてこの広報紙を有効に活用されることを願ってやみません。さらに、これを機会として郷土の歴史を知ることを生涯学習の一つとされれば望外の喜びとするところであります。

OBの方々の声

知的世界へのいざない

元専務理事 鈴木 武次
文化財センターができて約20年。広報紙の創刊は、まことに時宜をえた企画です。

縁の下の力持ちみたいな文化財センターの仕事の内容を広く知ってもらい、またその仕事の成果である調査・研究の結果や、出土した“もの”の情報を、紙面でわかりやすく解説し提供する。そして、いろいろな時代について、地域のかたがたに、郷土の変化を考えてもらい、知的世界への探求へと、いざなうてだてとなることを期待しています。

追憶一法人の誕生に奔走したころ

元庶務課長 田中 久美
怖いもの知らずとはこんなことかもしれない。寄附行為という言葉の意味さえもわからぬ者が、財団法人の設立という特命で異動を命ぜられたのは、昭和48年度末のことであり、いま当時を回想し誠に汗顔のいたりである。

そして各方面の指導を仰ぎながら、やっこのことで設立認可がおりたのは昭和49年11月1日であり、あれからすでに18年も経過し、成熟した現在の文化財センターの偉容を目の当りにし、諸処追憶しながら感一入である。

現地説明会の推進策を

元調査班長 杉山 晋作
先日の踏査の折、現地で尋ねた農作業中の人は、私も文化財の仕事をしているからと親切に教えてくださった。こういうことは時々あって、これも寒暑のなかを現場に立つ人達の和があってこそのおかげと思う。次は調査に直接携わらない人々への広報だろう。たとえ調査途中であっても、毎週のように現地説明会案内が新聞に出る近畿と較べて関東はまだ少ない。隠密裡に行動した二昔前とは隔世の感がする新たな広報活動の開始を喜びたい。

創刊号によせて

元常務理事 植松 震
埋蔵文化財が全国一の宝庫と言われる本県において、昭和49年11月、開発に伴う遺跡の調査と研究事業を実施する機関として、全国に魁け千葉県文化財センターが設立されて18年、以来数多くの調査と有意義な研究が行われ、益々この事業が重要視されておりますことは、当センターの設立に携わった一人として誠に感無量であります。今後とも、関係各位の御尽力により、本県文化財保護思想の普及に努められますよう祈念してやみません。

県民の考古学をめざして

元調査部長(現当センター理事) 西野 元
「モノがザクザク出ると思った」初めて発掘に参加した若い人の感想である。

新聞やテレビを発掘調査のニュースが賑わすようになったことは、考古学が市民権を得た証しでもあろうが、一方で「ロマンの考古学」ともいような誤解も生まれた。

華やかな報道の背景にある調査研究者の姿や歴史を解明する道程などを人々に伝え、そこから埋蔵文化財を大切に作る心が芽生えるような広報となることを望んでやまない。

広報紙の刊行に寄せて

元調査班長 種田 齊吾
現在、中学校に勤務し、授業では社会科を担当しております。歴史的分野の学習では、生徒に「歴史に対する興味や関心を高める」ことが重視されており、さまざまな資料を積極的に活用することが大切になっています。広報紙の「埋蔵文化財アラカルト」などは、ファイルして授業でも使っていける、わかりやすい興味あるシリーズをお願い致します。

最後になりますが、文化財センターのますますの充実発展をお祈りいたします。

千葉県文化財センターとはどんなところでしょう

1. どのような事業をしているか

遺跡等埋蔵文化財の調査研究及び文化財保護思想の普及と普及などを図るために、次の4つの事業を実施しています。

(1) 発掘調査事業

県内には数多くの遺跡があり、国及び県の公共事業を行うときには、事業地内に所在する遺跡の取扱いについて、県教育委員会と事業者との間で話し合いがなされます。遺跡は壊されるとふたたび元へ戻すことができませんので、できるだけそのままに保存することを原則としていますが、やむを得ない場合は、当文化財センターが発掘調査を行って、その内容を整理して、発掘調査報告書としてとりまとめています。

(2) 研究事業

発掘調査された遺跡・遺物から本県の歴史を明らかにするための研究を行い、その成果をとりまとめた『研究紀要』や、わかりやすく各時代の歴史を説明した『房総考古学ライブラリー』を発行しています。

また、県内の遺跡から出土した金属器や木器を腐食から守るため、それらの遺物保存処理も行っています。

(3) 文化財普及事業

一般県民の皆さまを対象に、埋蔵文化財に親しみをもていただくために、発掘調査中の遺跡で現地説明会を開催したり、出土遺物の公開展を開催したりしています。

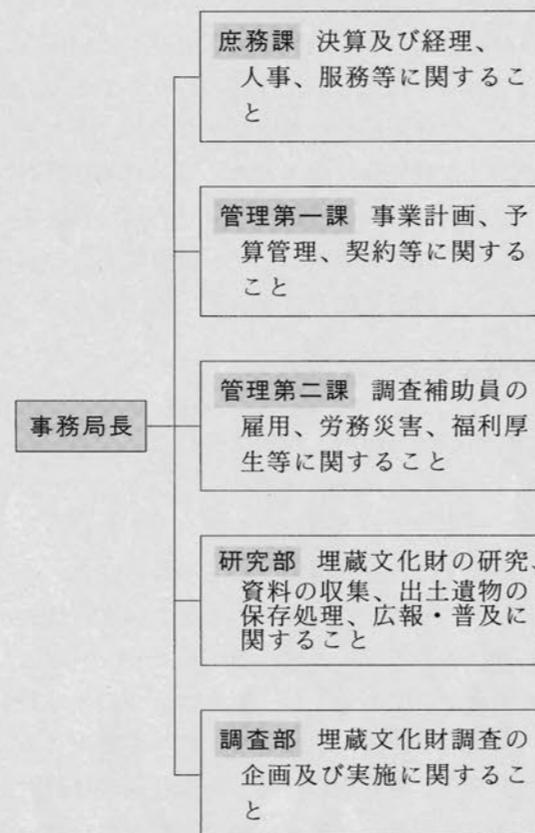
(4) 研修事業

県内市町村教育委員会及び地区文化財センターの方々を対象にして、埋蔵文化財に関する知識と技術を高めていただくための研修会を実施しています。

2. 組織はどのようなになっているか

当文化財センターは、千葉県教育委員会によって設立された財団法人であり、昭和49年11月1日に設立され、千葉県教育庁内に本部をおきました。同年12月に千葉県亥鼻1丁目3番13号に本部を移転して本格的な活動を開始しました。これ以降、本部は、昭和60年4月に千葉市葛城2丁目10番1号、平成2年6月に四街道市鹿渡無番地（現在809-2）に移転して、現在にいたっています。

役員は、会長（千葉県知事）、理事長（千葉県教育委員会教育長）、副理事長、専務理事、常務理事、理事、監事によって構成されており、事務局の組織（86名）は次のとおりとなっています。



3. 本部施設はどのようなになっているか

本館は4階建て、別館は2階建てです。当文化財センターでは本館の1～3階と、別館の1階を使用しています。

本館

1階の大きな玄関を入ると、左側に庶務課の受付が見えます。当文化財センターにご用の方はここで受付していただきます。玄関を上がって廊下を左側に行くと、手前に先ほどの庶務課の室があり、その先に管理課、役員室と並び、廊下の突き当たりは図書室です。ここには県内外の発掘調査報告書を中心に、考古学、古代史に関する約25,000冊の図書が収蔵されています。

2階へ上がると、正面が会議室です。その前の廊下を右側に進むと調査部の室があります。全県下にある各現地事務所には、ここから指示が出ます。さらに廊下を進むと展示室があります。ここでは、まだ報告書で発表されていない考古学上の貴重な遺物を展示したり、職員が調査・研究するうえで必要な資料を保管しています。そのとなりは研究部の室です。ここでは、『研究紀要』『房総考古学ライブラリー』『研究連絡誌』の編集・刊行を行ったり、調査で得られたデータの保管・活用方法の研究と実践、資料の貸出しなどを行っています。廊下の突き当たりは第1収蔵庫です。ここには、おもに図面や写真の資料を保管しています。会議室の前の廊下を右側に進むと、その先は別館2階につながっています。

3階は、調査部の四街道事務所になっていて、発掘調査現場に行く職員の基点になっているほか、多数の調査補助員が、土器の接合・復元及び図面の作成など、報告書刊行へ向け



本部・四街道事務所

ての整理作業を行っています。

別館

1階の玄関を歩いて右側に行くと、研究部の保存処理関係の各室があります。ここでは発掘調査で出土した、金属器、木器などが錆びたり、腐ったりしてその資料的価値を失わないよう、化学的処理によって保存する作業を行っています。また、X線写真撮影装置や赤外線テレビシステムなども置かれていて、科学的な考古資料調査もできるようになっています。

図書室、展示室については、閲覧や見学は自由にできるようになっておりますが、その際には、事前にご連絡くださるようお願いいたします。

発掘調査速報

住居から出土した巫女の鏡？

市原市草刈遺跡K区の竪穴住居から、直径5.4cmの小さな鏡が出土しました。背面の文様を見ると、平たい縁に続いて3重の区画があります。まず、斜めにめぐる櫛歯文帯、次に2本の線で区画された幅約6mmの帯、そして中央に紐があります。この真ん中の帯の所々に正体不明の凹凸が見えます。これとよく似た鏡には、巫女を意味する文字をもつものがあります。この鏡には、吊りさげるための小孔があげられていますので、巫女が身につけていたのかもしれませんが。（白井久美子）



巫女の鏡？

大木台第2号墳の埴輪列

印旛沼を見おろす1400年ほど前の古墳から、着飾った女人や馬の埴輪がズラリと立ち並んで見つかりました。いままでは、古墳の上にもどのように埴輪を立てたかについては、あまりよくわかっていないため、貴重な資料として注目されています。お墓にいろいろな形の埴輪を立て、古代の人々がどのような気持ちを込めて亡き人をあの世に送ったのか。保存状況の良いこの古墳は多くのことを私たちに語ってくれることでしょう。（糸原 清）



埴輪列検出状況

菅生遺跡の調査始まる

木更津市の小櫃川べりにある菅生遺跡はかつて多量の木製農耕具を出土したことで、奈良県唐古遺跡・静岡県登呂遺跡とともに日本の三大農耕遺跡として著名な遺跡です。今回はその南西部を調査する予定であり、弥生時代の集落のひろがりや古墳時代の大溝の続きなど、多くの成果が期待されます。写真は遺跡を西から見たもので、現在は水田になっていますが、皆さまも発掘調査で過去の菅生をのぞいて見ませんか。（高梨俊夫）



発掘はじまる菅生遺跡

埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

第1回 旧石器 [先土器] 時代

約1万年以上前の旧石器時代の住まいのようすは、実のところそれほどよくはわかっていません。日本で断片的にわかっている資料や外国で発見されている住まいから、住まいのようすを復原してみましょう。

住まいの痕跡は、全国的にみても数例しか発見されていません。浅い皿状の掘り込みや穴が数例発見されていますが、おそらく、地表に深く穴を掘ることはまれで、地表面に細い柱を建て、軽くて簡単な上屋をつくったと考えられます。テントのような住まいを考えてよいかもしれません。

住まいは、どのような材料でつくられていたのでしょうか。骨組みには木、象や鹿などの動物の骨や牙が、屋根には獣皮や樹皮、草

などが用いられたと思われます。

炉と思われるものとして焼けた土が発見されています。調理・暖房・照明施設である炉はどこにあったのでしょうか。いまのところ住まいの内か外かは、はっきりとはわかっていませんが、いずれにしても住まいの近くにあったと思われます。（新田浩三）

まちがい探し(まちがいは1か所。次号に回答)



旧石器時代の生活のようす(絵 大鷹依子)

Q & A

1. 埴輪って何ですか？

埴土(粘土のこと)でつくった円い筒という意味です。古墳を聖域として区画したり、その偉大さを誇示したりするために、古墳の頂や周囲を取り巻くように設置されました。

古墳の規模の変化につれて、円筒埴輪だけでなく、写実的な大きささまざまな種類の埴輪がたくさんつくられました。埴輪からは、当時の葬送儀礼のようすや人々の生活、考え方などをうかがい知ることができます。

2. 埴輪にはどんなものがありますか？

円筒埴輪と形象埴輪があり、形象には人物・動物・器財・家形などがあります。人物では武人・農夫・巫女などがあり、動物には

犬・馬・牛・鹿・猪・猿・鶏・鷹などさまざまな鳥獣がみられます。器財には武器や武具、儀式用道具類、食事用具、舟など種類も豊富です。家形には住居や倉庫を表現したものがああります。

3. どうすれば発掘の見学ができますか？

遺跡の発掘調査を行っているのは、県及び各郡市単位にある地区文化財センターや市町村教育委員会です。したがって、発掘現場の見学を希望する場合は、地元教育委員会か調査を行っている文化財センターに問い合わせることが必要です。また、遺跡の現地説明会や博物館、公民館主催の遺跡見学会もあります。開催日時などについては県や市町村の広報紙や新聞案内欄等に掲載されますので、日ごろから注意してご覧ください。（斉藤 茂）

埋蔵文化財普及事業案内

当文化財センターで予定されている主な事業は次のとおりですので、ふるってご参加ください。

【千葉県文化財センター出土遺物公開展】

平成4年11月22日(日)から12月6日(日)まで、当文化財センターで発掘した最新の資料の公開を本部展示室にて行います。詳細については調査部までお問い合わせください。

【おゆみ野地区椎名崎古墳群現地説明会】

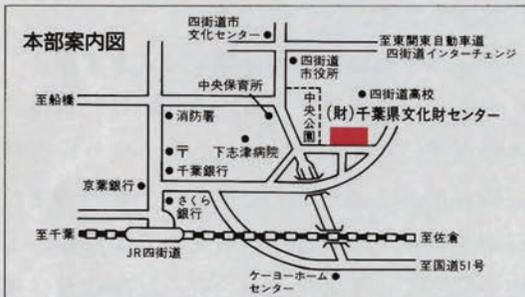
平成4年10月25日(日)に現地で開催します。千葉事務所では、いままでに出土した遺物も展示する予定です。詳細は千葉事務所までお問い合わせください。

【千葉県遺跡調査研究発表会】

平成5年1月31日(日)に佐原市民会館で、県内で発掘調査された主な遺跡の調査成果を発表します。詳細は香取郡市文化財センター調査課(0478-83-3531)にお問い合わせください。

千葉県文化財センターの主な施設案内

本部・四街道事務所 当文化財センターの中核となる建物で事務機能が集中しています。なお、3階は四街道市を中心とした地域の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所となっています。



千葉事務所 千葉市おゆみ野地区・市原市千原台地区の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、JR外房線鎌取駅より東へ徒歩約20分。

所在地 千葉市緑区おゆみ野1-35-1
(☎ 043-292-2407)

印西事務所 千葉ニュータウン建設に伴う埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、JR成田線木下駅より京成バス津田沼行き割野下車徒歩1分。

所在地 印旛郡印西町大森字割野749
(☎ 0476-46-4319)

成田事務所 成田市周辺及び香取郡内の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、京成成田駅より吉岡経由佐原駅行バス薬草園前下車徒歩1分。

所在地 成田市十余三字円妙寺30-52
(☎ 0476-22-5106)

市原事務所 東関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、内房線五井駅より養老川右岸沿いの道を上流に車で約10分。

所在地 市原市村上1,879
(☎ 0436-26-7929)
33

木更津事務所 県南部の埋蔵文化財調査を担当する現地事務所、久留里線東清川駅より国道409号バイパスを清見台方面へ徒歩15分。

所在地 木更津市菅生405
(☎ 0438-98-2317)

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの現地事務所にお問い合わせください。

編集後記

待望の広報紙を刊行することができました。本紙を通じて、県民の皆さまと“心のキャッチボール”を行うことによって、埋蔵文化財を少しでも身近に感じていただければ幸いです。ご意見があれば、当文化財センターまでお寄せください。(横山 仁)

房総の文化財

— 第 2 号 —

平成 5 年 3 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850



▲山野貝塚で発掘された柄鏡形住居跡

発掘！柄鏡形住居跡

袖ヶ浦市飯富の「山野貝塚」で、縄文時代後期の「柄鏡形住居跡」が見つかりました。

当時の住まいは、地面を掘りくぼめた「竪穴住居」です。「柄鏡形住居」もこの一つで、上から見た形が柄のついた鏡に似ていることから、このようによばれています。柄の部分は出入口と考えられ、今日の玄関に相当します。この住居跡は、縄文時代のなかでも4000年前ころの一時期だけに多くつくられました。

写真の住居跡は比較的大型で、複数の炉の跡や床に埋め込んだ土器、無数の柱の跡が認められます。おそらく、いくどか建て替えが行われているのでしょう。

ところで山野貝塚では、貝殻などが捨てられた場所の外側に住まいが建てられたようで、この「柄鏡形住居跡」も例外ではありません。「どこに住まいをつくるか」ムラのきまりがあったのかもしれませんが。（上守秀明）

ますます興味がいってきた!!

千葉東南部地区の遺跡調査発表会

昨年の10月25日(日)に千葉東南部地区の遺跡調査発表会を開催しました。千葉東南部地区は現在「おゆみ野」という住宅街になっていますが、となりの「ちはら台」とともに当文化財センターが以前から発掘調査を実施してきたところです。



全体説明

今回の発表会は、千葉事務所と椎名崎古墳群の両会場で行いました。千葉事務所ではこれまでの発掘品を展示し、椎名崎古墳群では遺跡周辺にあったススキを使って平安時代のすまいを復元したり、古代住居跡の「体験発掘」やカマドを使った「古代料理づくり」などのユニークなコーナーもつくりました。参加人数は800人にも達し、工夫された展示や古代クイズにうれしそうな声をあげる子供たちと、泥だらけになりながらも熱心に土器をさ



体験発掘

がす親子の姿が印象的でした。

これまで展示重視の遺跡発表会が多かったなかで、今回の体験重視の試みは好評だったようです。とくに、当地区に住んでいる多くの小・中学生の参加があったことはうれしいことでした。参加された方々にとって、自分たちの祖先に直接ふれることができた初めての機会だったとおもいます。



復元住居

参加者の方々からは「毎日体験発掘したい」「土器をさがしてたときはとても感動的でした」「こういう企画があれば何回でも来たい」「平安時代のイメージが大きく変わりました。とても貧しかったのですね」などの声がありました。このような遺跡調査発表会は今後もいろいろな場所で開かれます。ぜひ楽しみに待っていてください。(加藤修司)



展示風景



笹子城跡の現地説明会

木更津市の東部笹子地区に所在する笹子城跡は、いまから500年ほど前の戦国時代初めごろに使われていた城です。この城には、真里谷武田氏という、市原から富津にかけての東京湾一帯を支配していた領主の一族がいたといわれています。

ところが、この笹子城跡の一部に高速道路が通ることになり、道路が建設されることを、当文化財センターで発掘することになりました。

発掘を始めてみると、予想を上回る貴重な成果が次から次へと見つかりました。とくに、幅12m、深さ6mもある大きな堀の跡や、高さ3cmほどのたいへん小さな水晶でつくられた五輪塔などが注目されています。

そこで、私たちは笹子城跡の発掘で見つかった貴重な成果をぜひ県民のみなさんに見学していただくため、昨年の8月29日(土)に現

地で説明会を開きました。

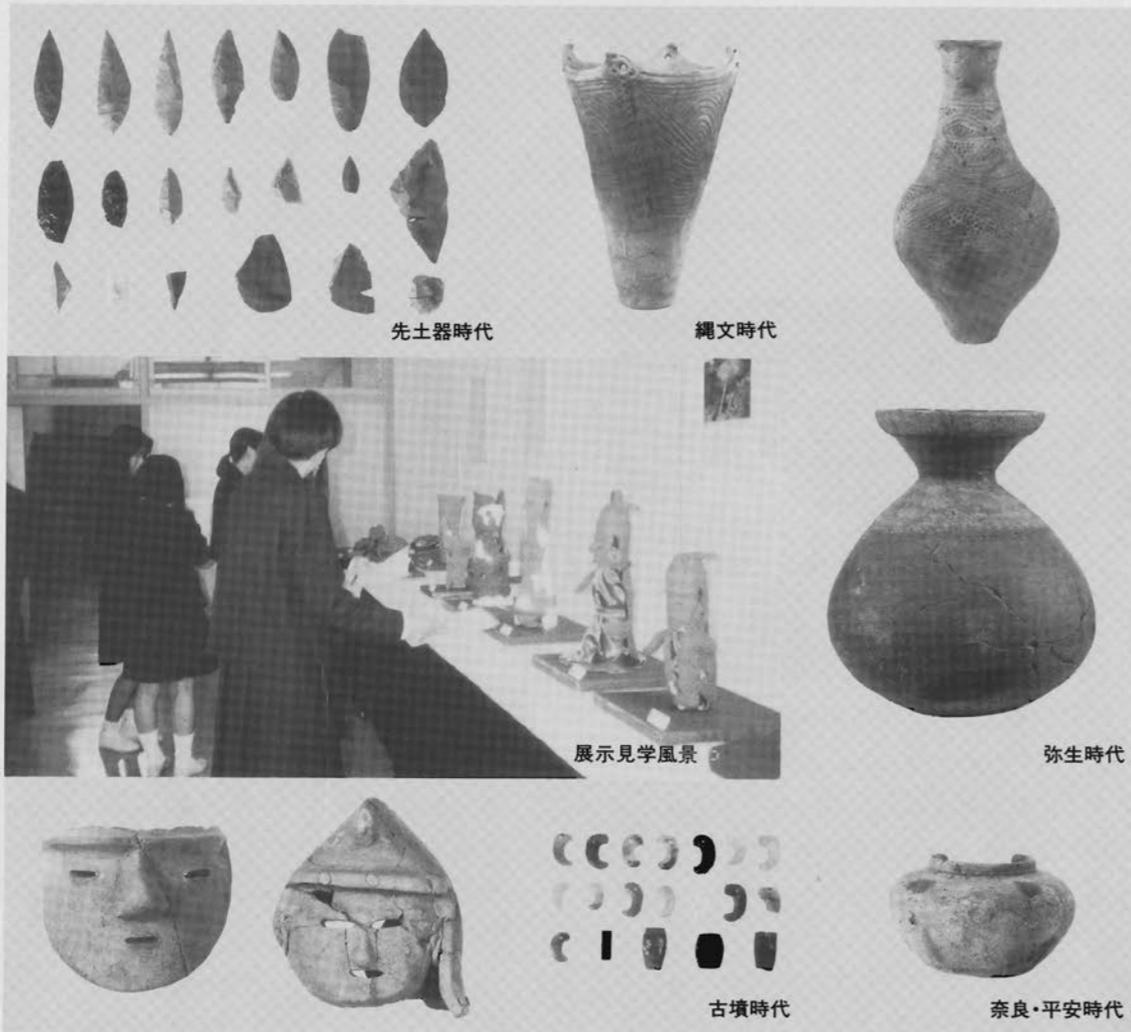
現地説明会の前日まで、現地への交通の便がかなり悪いことから、説明会への参加者は多くても150人から200人ではないかと予想していました。ところが、当日はうだるような暑さにもかかわらず、なんと500人近い方々が見え、現地は予想をはるかに超えたにぎわいとなりました。

とくに、見学する場所がせまかったこともあり、せっかく来てくださった方々にわかりやすく、ていねいな説明ができなかったことは残念でした。

縄文時代や弥生時代と比べずっと新しい戦国時代の城跡でも、歴史に興味をもつ方々にとってはロマンを感じさせるものだということを改めて思い知らされました。

また機会がありましたら、笹子城跡の発掘成果をお知らせいたします。(柴田龍司)

出土遺物公開展 — 最近出土の考古資料 —



当文化財センターでは、いままでに約2000か所にのぼる発掘調査を行い、原始古代の解明に多くの成果をあげています。

しかし、発見された貴重な遺物は博物館や本で見ること以外、あまり一般の人たちの目にふれる機会がありません。そこで、今年度から県民のみなさんに出土遺物を通じて、郷土の歴史をより深く理解していただくため、発掘された遺物の公開展を企画しました。

公開展は昨年(2010年)の11月22日(日)から12月6日(日)までの2週間にわたって、当文化財セ

ンター本部2階の展示室や会議室を会場にして、先土器(旧石器)時代から平安時代までの最近出土した遺物を中心に写真や文字パネルをまじえて、わかりやすく展示しました。

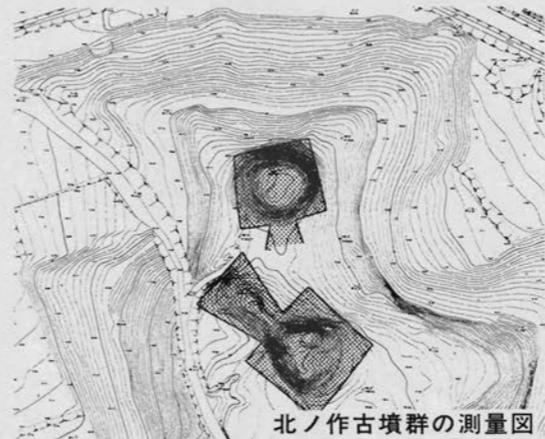
期間中の見学者数は1,000名以上に達し、「興味深く見ることができた」「来年以降も期待する」などの心強い感想をいただき盛況のうちに終了しました。今後、当文化財センターの普及活動の充実をはかる第一歩として十分な成果がえられたとおもいます。

(太田文雄)

発掘調査速報

菅生遺跡の弥生水田

木更津市菅生は弥生時代から田園地帯だったことがわかりました。現在の田の下に7層の田が埋まっていた。これは小櫃川のはらんによって運ばれてきた土が田を埋め、そこにまた田を復旧させる作業がくり返し行われ、さらに近代の耕地整理が行われた結果であり、一面一面の田んぼは人間の稲作へのこだわりを物語っています。写真は遺跡のいちばん北側で見つかった弥生時代の田の跡です。畦で区画された一枚の面積は現在よりもずっと小さなものです。(高梨俊夫)



北ノ作古墳群の測量図

奈良時代の須恵器窯跡

市原市永田(ながた)窯跡群で奈良時代の須恵器の窯跡が4基見つかりました。須恵器は、ロクロを使用してつくられ、密べい式の窯で焼かれたねずみ色の土器で、古墳時代の中ごろから焼かれています。今回は窯がいくつあるか確かめるための調査であり、この地域に30基前後の窯があることがわかりました。

窯からは、高杯・杯(ご飯茶碗のようなもの)・碗・皿・蓋・甕(貯蔵用)、首の長い壺や短い壺が見つかり、なかには金属の器の形をまねたものもありました。(小林信一)



弥生水田の畦のようす

古墳時代はじめの前方後方墳

手賀沼を見おろす台地にある沼南町北ノ作1・2号墳は以前に発掘調査されたことがあり、1700年ほど前につくられた県内でも数少ない古い時期の古墳群であることが知られています。今回の調査は古墳の形を明らかにする目的で行い、1号墳は一辺17m前後の方墳、2号墳は全長33mの前方後方墳(方形と長方形を組み合わせた形)とわかりました。1号墳には前方部の未発達な「突出部」があり、古い時期の古墳に多い前方後方墳の変遷を考えるうえで重要な資料です。(糸川道行)



須恵器の見つかったようす

埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

第2回 縄文時代

縄文時代の住まいは、前回に取り上げた旧石器（先土器）時代とは違って、各地でたくさん見つかっています。

旧石器時代の住まいが痕跡も残らないような簡単なつくりのものであったのに対し、縄文時代の住まいはほとんどが竪穴住居です。竪穴住居は、地面を1mほど掘りくぼめて床とし、そこに柱を立てて屋根を葺いた住まいです。外から見ると、地面の上に直接屋根がかかっているように見えます。

掘りあがった住まいを上から見ると、四角い形のものより丸いものが多く、炉を中心に



して柱の位置に、ある程度の規則性がみられます。住まいの広さは、10~30㎡ほどのものが多く、5人家族が住めるぐらいの大きさです。炉は火をたいて、明かりや暖をとったり、土器の中に入れた貝などを料理したところです。炉が住まいの中に設けられるようになったのは縄文時代前期ころからで、早期では屋外に掘られた炉穴（ファイアーピット）が調理場などに使われていました。（安井健一）

前回のまちがいさがしの解答



左上にある建物がまちがいでした。旧石器時代には、高床の建物はまだ存在していなかったようです。右側のテントのような建物が、旧石器時代の住まいと考えられているものです。旧石器時代の生活のようすは、まだまだわからないことばかりです。みなさんも謎解きにチャレンジしてみませんか。（新田浩三）

Q & A

1. 貝塚って何ですか？

縄文時代のゴミ捨て場のことで、地面は貝殻で、一面に雪が降ったように真っ白になっています。なかには、直径100m以上のドーナツ型をした幅10m・厚さ2mにおよぶ貝層をもつ大きな貝塚もあります。食用だけの目的で採集したとしては、貝の量があまりに多すぎるので、干し貝をつくり、海から遠い山間部の人々との交易に使ったのかもしれませんが。

2. 貝塚からは貝のほかにどんなものが見つかりますか？

魚や獣の骨がでできます。めずらしいものとしては、ウミガメやアシカの骨も見つかることもあります。骨はふつう腐ってしましますが、貝塚では、貝の石灰分の性質によって残っています。人骨が埋葬されている例もありますので、貝塚はたんなるゴミ捨て場ではなかったかもしれません。もちろん、土器や石器も多く見つかります。

3. 千葉県で有名な貝塚はどこにありますか？

いままでに約550か所の貝塚が見つかっています。日本全体には約3,000か所といわれていますから、千葉県には全国の約1/5の貝塚が集中していることとなります。京葉道路の上にある有名な貝塚トンネルは、荒屋敷貝塚を保存するためにつくられました。千葉市加曾利貝塚や市川市堀之内貝塚には博物館があり、貝塚のようすや縄文時代のくらしについて、わかりやすい展示がされていますので、みなさんも一度訪ねてみるとよいでしょう。

4. どうして遺跡だとわかるのですか？

畑などを歩いていると、土器のかけらや石器が落ちていることに気づくことがあります。これは地下に埋まっていた遺物が、耕作で掘り起こされて地表に出てきたためです。土器などが集中してみられるようなところでは、その下に住居跡があるかもしれません。

また、地上に高く土を盛り上げた古墳のように、直接目で見ることのできる遺跡もあります。水田跡などの遺跡を除けば、多くの遺跡は台地の上に存在しています。（土屋治雄）

「シリーズ」住まいの移り変わりはいかがでしたでしょうか。縄文時代の家についておわかりいただけただけでしょうか？ 表紙にご紹介した山野貝塚で見つかった柄鏡形の竪穴住居跡の写真をみると、そこに住んでいた人々がどんなくらしをしていたのか、ますます興味をもたれたこととおもいます。そこで、今回は次のような特集をくんでみました。

特集 縄文人のくらし

私たちの主食であるお米が日本に伝わってきたのはいまから約2000年前の弥生時代のことで、さらに昔の縄文時代には、田畑を耕すことをほとんど知らなかったようです。

まず縄文人は、野や山でドングリやクリやクルミなどの木ノ実を拾ってきました。これを石のすりばち（石皿）と磨石を使って粉にして水で練り、クッキーやパンのように焼いて食べていました。穴を掘ってドングリをたくわえたりもしたようです。

貝塚は、縄文人が食べた貝の殻を捨てたところです。貝殻があまりに多いのは、干し貝などをつかって物々交換に用いたからかもしれません。貝殻のほかに、魚の骨やウロコなども出てきます。動物の骨やシカの角でつくった釣り針や、網のおもりに使った土器のかけら（土器片錘）が見つかることもあります。

貝塚からは動物の骨もたくさん出てきます。

シカやイノシシが多いようで、骨の髄まで食べるため打ち割られてバラバラになっています。狩りのときに使った石の矢じり（石鏃）や石の槍先なども出てきます。下の写真は香取郡小見川町白井大宮台貝塚で見つかった縄文時代のお墓ですが、犬の骨が人間とおなじようにていねいに埋葬されていました。縄文人が犬を大切に飼っていたことがよくわかっておもいます。猟犬として狩りに連れていったのかもしれませんが。（四柳 隆）



発掘調査をささえるみなさん



調査補助員さんたちとの一問一答

いままでで一番うれしかったことは？

季節を肌で感じられること。
こわれていない土器を取り上げたこと。
初めて見るものが出てきたこと。
いろいろな人たちと出会えたこと。
給料日。

いままでで一番つらかったことは？

雨が降ったときや、暑い夏の作業。
発掘方法について、何回聞いてもよくわからなかったこと。

お昼休みは何をしていますか？

みんなで雑談しています。
現場近くの野山を散策しています。
調査の方法などを教わるようにしています。
みんなで運動しています。
ずっと食べています。

発掘をするようになって変わったことは？

体力がついて健康になったこと。
歴史にあらためて関心をもったこと。
友だちが増えたこと。
へそくりが増えたこと。

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの現地事務所にお問い合わせください。

また、広報紙や見学などに関するご質問、ご意見をお待ちしています。

編集後記

だんだん暖かくなって、発掘調査にも最適な季節がやってきます。一つ、困るのが花粉症ですが、これも季節を肌で感じることでできる一コマでしょう。まもなく新年度、次号はさらにわかりやすく、充実した内容でお届けできればとおもっています。(岡田光広)

房総の文化財

— 第 3 号 —

平成 5 年 6 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850



よみがえる人物埴輪

写真の3体の埴輪は印旛村瀬戸の大木台2号墳で発見されたものです。すべて女性の埴輪で、髪を頭の上で策ね、イヤリングや丸玉のネックレスをつけ、スカートのような裳をつけています。裳の下の円筒部分は、土の中に埋められていました。これらの埴輪は、古墳の外側を向いて一列に巡らされていたようです。土で汚れ、細かくバラバラに割れていた埴輪の破片も水洗いをし、ジグソーパズル

のようにつなぎ合わせていくと、このように当時の姿がよみがえってきます。

このほかに、冠の形をした帽子を被って、腰に太刀を佩いた男性の埴輪や、鞍を装着した馬の埴輪なども見つかりました。これらは当時のファッションを教えてくれるとともに古墳という日本の歴史上もっとも巨大化したお墓で行われた吊いのようすを物語っているのかもしれない。(糸原 清)

効率的な文化財センター 運営を

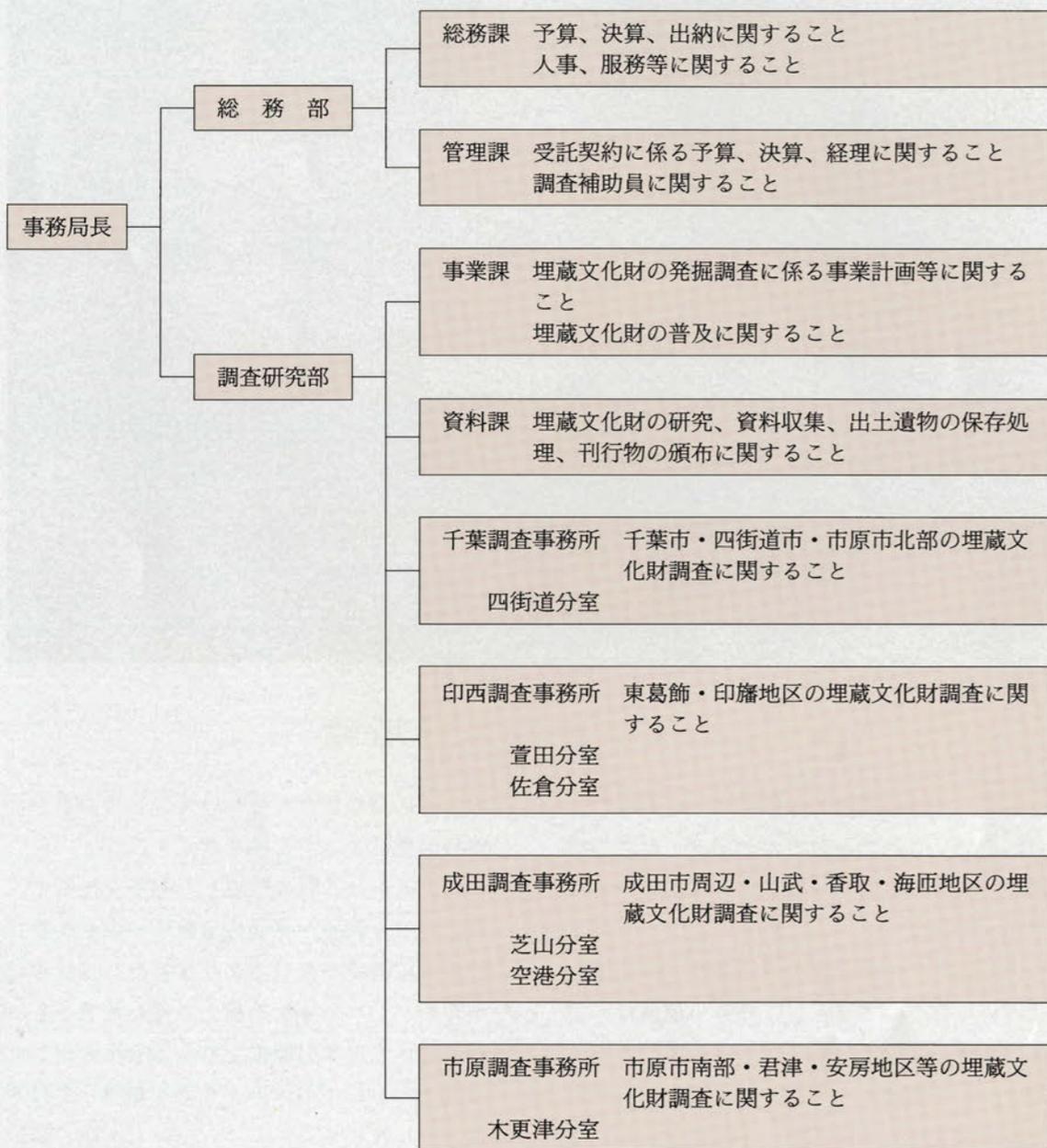
事務局組織の改正

当文化財センターの事業については創刊号で紹介しましたが、これらの事業をより効果的にすすめるため4月1日から事務局の組織を全面的に改編し、組織体制の整備充実をはかりました。

おもな改正点は、部制をひき総務部に総務

課（旧庶務課）と管理課（旧管理一・二課）が、調査研究部には事業課と資料課があります。

さらに県内を四つの地域に分け、それぞれ調査事務所を設置し、埋蔵文化財調査の円滑化をはかることとしました。



①千葉調査事務所

所在地 千葉市緑区おゆみ野1-35-1

(☎ 043-292-2407)

J R外房線鎌取駅東方の閑静な新興住宅街の一角にあります。職員17名の大所帯です。また本部と同じ建物のなかに、職員6名の四街道分室があります。当事務所は大規模な宅地開発事業に伴う調査が多いのが特徴です。おもな事業は、千葉市東南部地区（おゆみ野）、市原市千原台地区（ちはら台）、四街道市物井地区の調査です。

おもな遺跡には、縄文時代の千葉市有吉北貝塚、昨年現地説明会を開いた椎名崎古墳群、本号で紹介の草刈遺跡、奈良・平安時代の四街道市小屋ノ内遺跡があります。特におゆみ野・ちはら台には遺跡が集中しています。

③成田調査事務所

所在地 成田市十倉三丁目妙寺30-52

(☎ 0476-22-5106)

成田市街から佐原方面へ向かう国道51号線沿いの、東関東自動車道と交差する付近にあります。職員4名が勤務しています。分室は芝山分室など2か所で、職員10名が勤務しています。当事務所は道路の改良・建設に伴う調査が多いのが特徴です。おもな事業は東金道路二期工事に伴う調査です。

おもな遺跡には、馬形埴輪などを出土した芝山町山田宝馬古墳群、縄文時代早期の貝層が残されていた干潟町桜井平遺跡があります。また、調査例の少ない地域の遺跡として、古墳時代から奈良・平安時代にわたる山武町栗焼遺跡の調査が期待されます。

②印西調査事務所

所在地 印旛郡印西町大森字割野749

(☎ 0476-46-4319)

J R成田線木下駅から千葉ニュータウン中央方面へ向かう県道沿いにあります。職員7名が勤務しています。分室は萱田分室（八千代市）と佐倉分室があり、職員10名が勤務しています。当事務所では、千葉ニュータウンの開発に伴う調査のほか、東葉高速鉄道、佐倉第三工業団地や道路の改良・建設に伴う調査など、さまざまな事業を扱っています。

おもな遺跡には、本号で紹介の大木台2号墳・鳴神山遺跡のほか、県内で最も古い鍛冶場跡が見つかった古墳時代の八千代市沖塚遺跡や、旧石器時代から古墳時代の各時代ごとに注目される沼南町石揚遺跡があります。

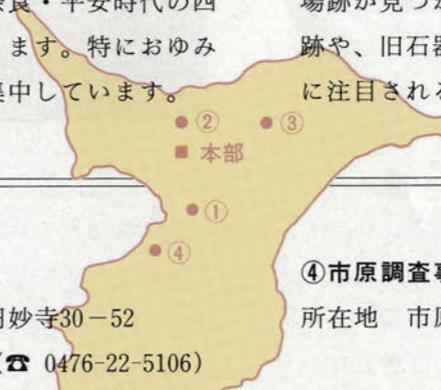
④市原調査事務所

所在地 市原市村上1,879

(☎ 0436-23-7929)

J R内房線五井駅の東南、養老川右岸沿いに所在します。職員7名が勤務しています。木更津に分室があり、こちらは職員4名です。当事務所のおもな事業は、東関東自動車道千葉・富津線と福増浄水場（市原市）の建設に伴う調査です。ほかに富山町の道路関係の事業など、安房地方での調査もしばしばあります。また低地の調査が多いのも特徴でしょう。

おもな遺跡には、本号で紹介の武士遺跡、弥生時代の水田跡が見つかった木更津市菅生遺跡と芝野遺跡、昨年現地説明会を開いた笹子城跡、古代の官道跡が発見された市原系里制遺跡があります。



発掘調査速報

文字が語る古代のムラ

印旛郡印西町の印旛沼にほど近い台地上に鳴神山遺跡があります。遺跡の周囲は千葉ニュータウンという広大な住宅地になっていますが、いまから1,200年前の昔もおおきなムラだったことが、これまでの調査で明らかになってきました。

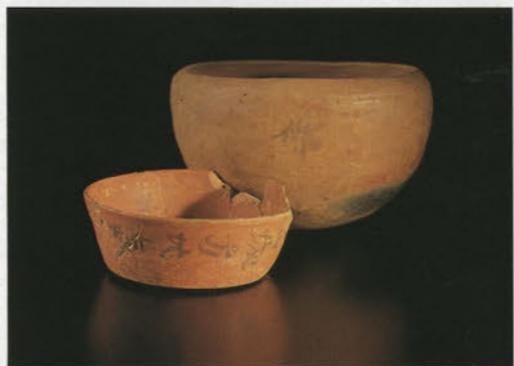
昭和63年からはじまったこの調査では、東京ドームの1.2倍の広さに200軒以上の住居跡が見つっています。ほとんどが奈良時代から平安時代の住居で、千葉ニュータウン周辺では、当時としては最大級のムラといえます。

鳴神山遺跡で注目されることは、土器に文字や記号を書いたものがたくさん見ついていることです。文字は墨で書いたり（墨書）先の尖った針のようなもので書いて（線刻）

います。

「佛」と書いたものもあり、仏教が一般に広まっていたこともわかります。また、神への祈りを込めた内容のものもあり、土器に願いを託していたのかもしれない。

土器に書かれたいろいろな文字から、当時の人々の暮らしぶりがさらに明らかになってくることでしょう。（郷堀 英司）



大昔もニュータウン？ 草刈遺跡

市原市にある草刈遺跡は、千葉市に隣接するちはら台ニュータウンの西端部に位置する大きな遺跡です。東京湾に向かって流れる村田川と、茂呂沢とよばれる沢地にはさまれた台地上に営まれたこのムラには、はるか旧石器時代の昔から人々が住みはじめたようです。

昔はいまとちがい海がすぐそばまでできて、縄文時代の貝塚も見つっています。

弥生時代にはいと、ムラの人口は急激に増加します。この地は沢や川に近く、このころはじまった米作りに適していたのでしょう。水の便がよいため、船を使った交流もさかんで、これまで見つかった多くの遺物のなかには、遠く西日本や東海方面からもたらされた土器やお祭の道具などめずらしいものが見られます。この時期を境に草刈地域では急に開発がすすみます。

古墳時代にはいと、台地の上はもとより北側の斜面まで造成し、たくさんの住居が作られるようになりました。いままでに調査された住居の数から、当時の人口を割り出してみると、草刈ムラの人口密度は非常に高かったようです。この辺りで現在すすめられているニュータウン開発は、歴史上2度目といえるかもしれませんね。（立和名 明美）



埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

第3回 弥生時代

弥生時代の住まいも、縄文時代と同じく竪穴住居です。かたちは丸いもの、小判形のもの、隅が丸くなった角形のものときまじいでふつうは炉が一つつきます。また、地面からの掘り込みはだいたい50cmから1mといったところです。

ここまでは縄文時代とそれほど変わりませんが、弥生時代の場合、一つ大きな違いがあります。それは、柱の位置および本数がほぼ固定したことです。そして、それに応じて炉も住居の奥の柱と柱の真ん中に位置するようになりました。入口はふつう炉の反対側にあり、作りつけのはしごをおりてなかへ入るようになっています。

つまり、現代的な表現におきかえると、ドアを開けたときに目にする住まいのようすは、4本の柱に囲まれたせいぜい四畳半たらずの空間と、その正面の床に作られた炉を囲んだ家族の姿が見えてきます。なかは暗かったはずでどれだけはっきり見えたかわかりませんが、床は土のむきだしで、板などで覆った痕

跡は見あたりません。4本柱の内部、とりわけ炉の手前は固く踏みしめられていますのでその辺がおもな生活の場となっていたのでしょう。柱の外側つまり壁寄りの場所はその逆です。台所や居間といった明確な部屋の区別がなかった当時、そこには雑然とした住居空間が存在したことになります。

こんな住まいのあり方をみなさんはどう思うでしょうか。電気、ガス、水道はもちろん便利で衛生的な住居の環境になれきっている私たちが、それを貧しいとかなづけることは簡単です。しかし、夏は涼しく冬はわりあい暖かい茅葺き屋根や半地下式の構造、調理・暖房・採光の役を一つでこなす炉、身近な材木を使うなど、そこには古代人の経験にもとづいた住まいのノウハウがぎっしりつまっています。

弥生時代は日本の歴史上、一大変革期といえますが、その住まいにはそれほど大きな変化は見られません。これもその合理性の結果かもしれません。（小高 春雄）

まちがいさがし



弥生時代の生活のようす（絵 横山 仁）



縄文時代の生活のようす（絵 大鷹依子）

（解答）中央にある住居がまちがっています。竪穴住居の場合、掘りくぼめたところが床だったと考えられていて、絵のように高い床の建物ではありません。（安井 健一）

弥生特集 こんなお墓があるんです

いまから約2,300年前、東日本にも稲作が伝わってきた弥生時代のはじめのころ、関東地方を中心におもしろいお墓が流行しました。それは「再葬墓」とよばれているもので、名前の由来はそのままこのお墓のようすを物語っています。つまり、再び・葬る・お墓ということです。それではこの「再び葬る」とは、どういうことなのでしょう。

わかりやすく説明すると「もう一度、埋める」ということです。ムラびとが死んでしまうと、その死体をまず地面に穴を掘って、埋めます。しばらくそのままにしておき、死体が腐って骨だけになったころ、この穴を掘り返します。そして、この骨をこんどは、壺や甕など土器の中に入れて、もう一度埋めなおすのです。

下の2枚の写真は、私たちが発掘調査した市原市の^{縄文}遺跡で見つかった再葬墓です。

右の写真は、二つの再葬墓がとなりあって作られています。左側のお墓には2個の壺が重なり合うように埋めてありました。右側のお墓には大きな壺と小さな壺がならんで埋まっていた。

左の写真は、大きな壺が2個と、その手前にコップのような形をした小さな土器があります。

このように、再葬墓にはいくつかの土器と一緒に埋められていることが多く、おなじ家族の人々が、おなじお墓につきつぎと埋められていったものと考えられています。

大きな壺にはお父さんの骨が入っていたのでしょうか、小さな壺はお母さんでしょうか、寄り添うように並んでいる2個の壺は、兄弟の骨が入っていたのでしょうか、小さなコップ形の土器の骨は赤ちゃんでしょうか？

(加納 実)



Q & A

1. なんで弥生時代っていうんですか？

明治10年代、一人の少年が東京大学の付近で一個のもようのついた土器を見つけました。歴史好きのこの少年は、それがとおい古代の人々が使った土器であることを知りました。

このころ、すでに石器時代の土器として、

いまでいう縄文土器が知られていましたが、どこか違うなといういどでした。

坪井正五郎という学者がこれを研究して、のちにこの土器が発見された弥生町の地名にちなんで「弥生土器」とよび、時代を表す呼び方になりました。(花島 理典)

こんなことを計画しています

——埋蔵文化財普及事業のご案内——

当文化財センターでは、ことしから事業課が窓口となっているいろいろなイベントを計画しています。みなさんに親しまれるように努力しますので、ぜひご参加ください。

(1) 現地説明会の開催

わたしたちがどんな仕事をしているかを、発掘調査の現場や整理作業をしている調査事務所をおして知っていただくものです。

千葉・印西・成田・市原の各調査事務所がそれぞれ担当して、7月から11月にかけて4回ほど予定しています。遺跡の紹介はもちろんのこと発掘の体験やクイズなどたのしい企画も用意しています。

(2) 出土遺物公開展の開催

平成5年11月26日(金曜日)から
12月5日(日曜日)まで

最近の調査で発見された貴重な遺物や当文化財センターで保管している資料を一般公開します。ことしは千葉ニュータウン(印西町など)の発掘調査の成果のなかから選び、地元の施設をお借りして紹介します。2.5万年前の石器から、江戸時代の庶民信仰の塚までもりだくさんの内容を考えています。

(3) その他

また、小・中学校やいろいろな文化団体の遺跡見学会のお手伝いもいたします。事前にお近くの調査事務所にご連絡くだされば、申し込み方法や見学できる遺跡をご紹介します。ただし、交通の便がわるい所が多いので、ご注意ください。

このほかに、ビデオテープで当文化財センターの活動を紹介することも計画しています。

収蔵遺物の紹介

今回紹介する石器は、成田空港の敷地内の東峰御幸畑西遺跡(空港No.61遺跡)から見つかった千葉県で最も古い約25,000年前の旧石器時代のものです。

台形様石器(写真右上の六つ)は、石のかけらの両端を加工し切出しナイフの形にして、先端に鋭い刃を作りだしたものです。棒の先につけナウマンゾウなどを突き刺すのに使ったのでしょう。磨製石斧(写真左上の一つと左下の二つ)は、みがいて刃を作りだした石の斧です。木を切ったり、土を掘ったりするのに使われました。写真右下は、石器や石のかけらをくっつけたものです(接合資料)。石器を作るために割った石を順番にくっつけたもので、これによって当時の人たちがどのようにして石器を作ったかがわかります。

(新田浩三)



ドキュメント “整理作業”

遺跡の調査は発掘作業だけでおわるわけではありません。遺物や住居など、遺跡で発見したものを報告するという仕事が残っています。ただしそのためには、情報を整理したり報告しやすいかたちにしなければなりません。これを行なう一連の作業が整理作業です。それでは作業についてご紹介しましょう。



注記

①水洗・注記 遺物の泥を洗い落とし、遺跡や遺構の番号を記入する。



復元

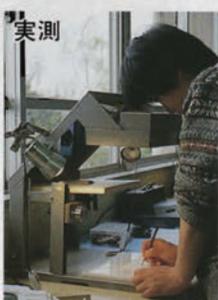
②接合・復元 土器などの破片でたがいに合うものをつけてもとのかたちに近づける。残りのよいものは石膏などで補強。



計測

③実測・計測・拓本 遺物を種類別や時代別に分類したあとで、必要なものを抜きだして図化する作業。

上はノギスを使って石器を計測しているところ。右はニシオグラフという機械



実測

で実測しているところ。実測は三角定規などを使って手で行うのがふつうですが、本格的



拓本

な図化用の機械を使うこともあります。さて、あるていどかたちのあるものは実測できますが、模様

のついた土器の破片などは拓本で表します。上は縄文土器の拓本をとっているところ。



トレース

④トレース 原図をもとにして報告書用の図に仕上げる。現場で作った図面（住居の平面図など）は、あらかじめ修正して必要な線だけをいれる。

遺物の実測図は、たんに原図の線をなぞるだけでなく表現力も要求される。



図面作成

⑤図面作成 トレースのおわった図を台紙に貼りこんで版下を作る。必要に応じてスクリーンなどを利用。写真についても版組みする。

⑥原稿執筆 図面などと合わせて報告書完成。

以上が整理作業の概要ですが、遺跡の種類や遺物の性質によって、それぞれに適した整理方法がとられています。（沖松 信隆）

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただく調査補助員を募集しています。ご希望の方は最寄りの調査事務所にお問い合わせください。

また、広報紙や見学などに関するご質問、ご意見をお待ちしています。

編集後記

発掘現場の木々の緑もますます濃さをましてくれました。本格的な夏の到来とともに当文化財センターの発掘調査もいっそうすすんでまいります。本紙はこの号からオールカラーになりました。今後もさらに充実した紙面にしていきたいと思ひます。（沖松 信隆）

房総の文化財

— 第 4 号 —

平成 6 年 1 月 1 日

財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850



2000年前の大都会 草刈遺跡へようこそ

平成5年12月11日(土)市原市草刈遺跡で「草刈に『弥生』がやってきた一僕たちがお米をつくりはじめたころ」という弥生時代をテーマにした遺跡発表会を開催しました。

遺跡のなかの住居跡の一つには柱と出入口のはしごを復原し、炉では火をたき、出土した土器や木の実を床に展示しました。そのほかにムラの周囲をめぐる環濠や、かなたに東京湾を望むことができた弥生時代の景観の想像図などの見学ポイントを設けて、それぞ

れに説明員をおいて、見学者にたいしてご案内をいたしました。またいつもは調査補助員の控え室になっているプレハブが臨時の展示室になり、この遺跡で発見された銅鐸や焼けた米つぶなどの貴重な資料が展示され、見学者の注目をひいていました。

午後は雷雨にみまわれましたが、学校が休みの第2土曜日ということもあり児童・生徒をはじめお年寄りの方々まで参加者は400人をこえたいへん盛況でした。(花島)

新たな年を迎えて



新年明けましておめでとうございます。新しい希望の年、平成6年を迎えまして皆様方の平安とご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、財団法人千葉県

文化財センターでは、昨平成5年4月から創立以来の組織の大改編を行い、新たな出発をいたしました。昨年はこの新体制のもと、開発事業等に伴う調査、あるいは研究・教育普及活動など役員と職員が一丸となって業務に邁進し、計画どおりに事業を推進することができました。

遺跡説明会でのひとこま

できたよ！できた？ —未来にのこすおゆみ野の遺跡—

平成5年8月28日(土)千葉市緑区おゆみ野ニュータウン内に残る有吉北貝塚など3か所の縄文時代の貝塚を歩いてみよう、という見学会を行いました。この地になぜ貝塚がこんなにあるのかを説明し、遺跡を未来に残すことの大切さを知っていただきました。

また、貝塚にちなみ、貝のプレスレット作りなども体験していただきました。(田形)

袖ヶ浦市山谷遺跡 —中世街道と市の跡—



財団法人 千葉県文化財センター
理事長 奥山 浩

とはいえ、ひとたび社会の動向に思いをいたすとき、内外の諸情勢はますます厳しく、緊張の度を深めており、経済情勢と強く関わって運営されている当文化財センターとしても決してこの荒波から超然としていることは許されません。心を新たに一層引き締めて財団の運営にあたる所存でございます。

本年11月1日には当文化財センターは創立満20周年を迎えます。この節目の年にあたり、来しかたへの反省を踏まえ、来たるべき21世紀への当文化財センターの展望を確固としたものとすべく、本年も組織をあげて積極的に取り組んでまいりたいと思います。なお一層のご支援を心からお願い申し上げます。



平成5年10月23日(土)に山谷遺跡の見学会は、250人以上の参加をえて盛大に開催されました。

この遺跡は小字の地名を「鎌倉街道」といいます。まさに地名どおりに鎌倉時代にまでさかのぼる街道と市場の跡が、県内では初めていっしょに発見されました。考古学が、大昔ばかりを研究しているわけではないことを知っていただけたことと思います。(柴田)

出土遺物公開展



—— 知っていますか？もうひとつの千葉ニュータウン ——

千葉ニュータウンの発掘調査は昭和45年から始まり、いままでに調査された遺跡は70か所以上をかぞえます。この間、住宅開発が進み、現在では高層ビルの立ち並ぶ近代的な景観をみせています。

こうしたなかで、地元のみなさんをはじめ多くの人々に、千葉ニュータウンのむかしを理解していただくために出土遺物展「一知っていますか？もうひとつの千葉ニュータウン」を企画しました。

この展覧会は、印西町教育委員会に後援を

いただき、印西町中央駅前センターの会議室を会場に昨年11月13日(土)から11月21日(日)まで開催いたしました。先土器時代から近世まで、各時代の出土資料を中心に解説パネルや写真を用いて展示しました。とくに大木台2号墳の発掘調査を撮影したビデオは、埴輪の発掘されていくようすがよくわかり好評でした。

連日100人をこえる見学者が訪れ、多くの人々にあらためて郷土の歴史に愛着を感じていただけたものと思います。(岡田)

発掘調査速報

市原市中潤ヶ広遺跡

市原市中潤ヶ広にある遺跡で、14万㎡(マリスタジアム5個分の広さ)の発掘調査を行っています。ここからは、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が多く発見されました。そのほかに方形周溝墓(溝で四辺を区画したお墓)や縄文時代・古墳時代前期の竪穴住居跡、古墳や奈良時代のお墓などいろいろなものがあります。

今回の調査で特筆すべきことが二つあります。一つは弥生時代後期の住居のなかから石剣が見つかったことです。千葉県内では遺構から出てきたのは初めてです。石剣は途中で折れていて、切っ先はなくなっていますが、刃の部分は非常に薄く、いまでも切れそうな感じです。

もう一つは弥生時代の方形周溝墓に塚のよ

うな土盛りが見つかったことです。土盛りはわずかに20cmしか残っていませんが、関東ローム層(赤土)や黒土が盛ってありました。

人が埋葬されていた四角い掘り込みもみつき、そこにも赤土が敷き詰められています。

土盛りの発見された例は県内でも少なく、貴重な発見といえましょう。(小林)



山武町小川崎台古墳群

小川崎台古墳群は、九十九里浜に近い山武町にあり、前方後円墳3基と円墳4基からなっています。高速道路がつくられるため、このうちの3基を発掘して、古墳の形やどんなものが埋められているかを調査することになりました。

そのなかの一つは、長さが約30mの前方後円墳で、6世紀にさかのぼる埴輪が発見されました。埴輪には、筒形のもの(円筒埴輪)や円筒の上の部分がおおきく開いた形のもの(朝顔形埴輪)、それに鳥や馬の形をしたものなどもあります。

写真の埴輪は首飾りをした人物で、調査が進むにしたがい顔の部分がみつかるかもしれません。

この古墳群の北側、境川をはさんで反対側

の台地の上には千葉県のなかでも古墳の数が多いことで有名な麻生新田古墳があります。また、近くの島戸境1号墳からは、葬られた人の地位の高さを示す銅の鏡が4枚も発見されています。

小川崎台古墳群の調査によって、今後どのようなものが出てくるか楽しみです。(永沼)



古墳特集 古墳のかたち

あなたは古墳ってなんだか知ってますか? ニュースにもときどき登場しますね。どこそこの古墳から何々が出てきた、といった話を耳にしたことがあるでしょう。

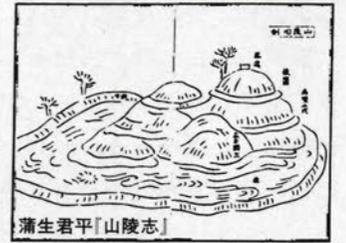
古墳とは3世紀から7世紀にかけて、土を盛り上げてつくったそのころの権力者のお墓のことで、あとからお話する横穴などを含める場合もあります。

今回は、その古墳の代表的なかたちをご紹介します。普通、古墳は上から見たかたちで分けられます。上からみて円形のを円墳、四角形のを方墳とよんでいます。

では、前方後円墳とはいったいどのようなかたちをしたものなのでしょうか。おなじように上から見ると、前のほうが四角形や台形で、後ろが円形のかたちをした古墳というこ

とになります。

えっ、古墳に前や後ろがあるのって? じつは、この呼び方は古く、江戸時代の学者が考えたもので、下の絵のような古墳のかたちを頭に描いて名づけたものです。



千葉市の人形塚古墳では、地面に描いた前方

後円形的设计図の痕跡が発見されています。これに似たものに後円部にあたるところが四角形になった前方後方墳もあります。

ほかに、横穴という、山の斜面に穴を掘って遺体を納める場所をつくったお墓も県内にたくさんあります。(永沼)

発掘された古墳



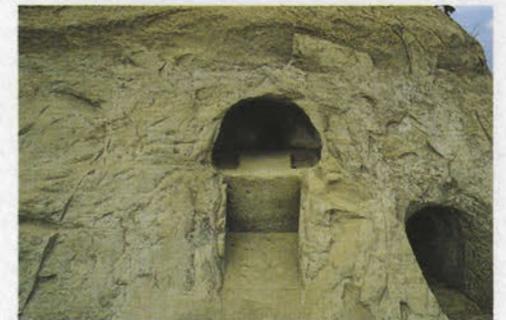
空からみた前方後円墳と円墳(千葉 人形塚古墳)



直径30mの円墳(千葉 石神2号墳)



空からみた前方後方墳と方墳(佐倉 飯合作遺跡)



山の中腹に掘られた横穴(茂原 山崎横穴群)

埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり

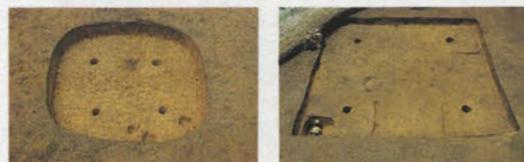
第4回 古墳時代

古墳時代の人々の住まいは、弥生時代と同じように、地面を掘りくぼめた竪穴住居です。

竪穴のかたちは、古墳時代の初めのころには弥生時代によくみられた小判形からしだいに变化し、隅が丸みをおびた四角形、中ごろには四隅が直角になります。後半の時期には7mから8mの大きなものが多くみられます。

竪穴住居のなかには4つの柱穴とはしごを固定した穴が見つかります。はしごを降りると柱だけが立つワンルームに入ったようです。

部屋のなかでは、古墳時代の中ごろまで真ん中より少し奥に、床を簡単に掘りくぼめただけの「炉」をつくり、煮炊きをしていました。それが後半になると奥の壁ぎわに「かまど」がつけられるようになり、煮炊きはおっぱらそこで行うようになります。かまどのまわりから土器がたくさんみつかるとのことです。柱と壁の間は、わらやむしろを敷いて、くつろぐための場所になっていたのかもしれない。(太田)



古墳時代初め(左)と中ごろ(右)の住居
丸みをおびたものから四角いかたちに変化している。赤く焼けた炉がみられる。



古墳時代後半の住居とかまど(上)

入り口の反対側にかまどあり、かまどの上やまわりにかめなどがおかれている。

まちがいさがし (絵 大鷹)



前回のまちがいさがしの解答



右上の建物がまちがいです。弥生時代の人々は、中央にある建物に住んでいました。

右上のものは鎌倉時代に武器などを収めた倉庫です。(横山)

犬の考古学

今年(戌)イヌ年です。そこで犬をたずねて、時間と空間をこえた考古学の旅に出てみることにしましょう。

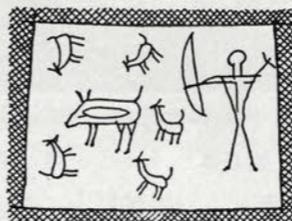
ここは、大阪府茨木市の昼神車塚、今から1450年ほど昔、古墳時代後期の古墳です。この

古墳には尻尾をくると巻き首輪をつけた犬の埴輪が立てられています。そして、犬の埴輪と並んで猪の埴輪もみえます。犬の埴輪は全国各地の古墳から出土しており、房総風土記の丘の竜角寺古墳群第101号墳でも犬と猪の埴輪が発見されています。



犬の埴輪(昼神車塚古墳)

旅をいそぎます。四国は香川県です。昔この香川県で発見されたと伝えられる、今から約2000年以上前の弥生時代につくられた銅

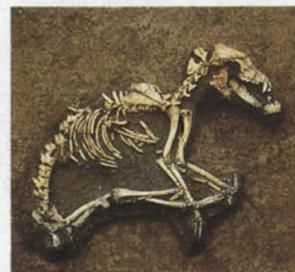


銅鐸絵画(伝香川県出土)

鐸です。この銅鐸には弓矢をもつ人物と猪、その猪を取り囲む5匹の犬の絵が鋳出されています。犬はみんなぴんと尻尾を立て猪を追い込んでいます。吠えかかる声が聞こえてくるようなみごとなものです。

旅は最後は千葉県で飾りましょう。小見川町の白井大宮台貝塚です。当文化財センターの調査により、縄文時代の中期、今から約4500

年ぐらい前の穴の中から一体の人骨と並んで一緒に埋葬されたい犬の全身骨格が発見されました。ここからは子どもの猪の骨格も発見され



犬の全身骨格(大宮台貝塚)

ています。これも埋葬されたもののようです。今までの旅で見てきた犬と猪の組み合わせがここでもみられます。そういえば犬と猪は、十二支でも子丑寅……戌亥、ネ・ウシ・トラ……イヌ・イノシシと一番最後に並んでいましたね。不思議なご縁です。(高木)

Q & A

古墳時代の食べ物にはどんなものがあつたのですか？

弥生時代とおなじように、お米を主食にしていたようで、甗(土製のせいろ)で蒸して食べるようになりました。私たちがお祝いするときなどにご馳走になる赤飯やチマキといったものは、そのころのなごりでしょうか。そのほかに、アワ・ヒエや海の幸、山の幸なども食事をかざったことでしょう。今でいう「健康食品」に通じるところがありますね。

土器の名前で土師器とか須恵器とかいうのがありますが、いったいなんのことですか？

どちらも古墳時代から平安時代にかけてつくられた土器のことです。土師器は、弥生土器の伝統をついだ素焼きのもので、火に強いいため、煮炊きに適しています。

須恵器は、5世紀ごろ朝鮮半島から作り方が伝えられました。これは立派な窯を使ってつくられたかたい焼き物で、水がもれにくいことが特徴といえるでしょう。(白鳥)

収蔵遺物コーナー

今回ご紹介する遺物は、古墳時代の初めころの住居跡から出土したものです。

上の写真は、白井町一本桜南遺跡で発見された土器の代表的なものです。左端の土器は物を蓄えるための壺で、表面を赤くぬったり磨いたりしてあり、ほかのものくらべてみるといねいな作り方をしています。壺の中には砂鉄が詰っていましたが、このような例はたいへんめずらしいことです。

奥のほうに見える2点は煮炊きに使われた甕で、底に台がつくもの（右上）とつかないもの（中央）の2種類あるのが、この時代の特徴といえます。

壺の前どなりにあるのが、小形の壺などを載せる台の役目をする器台とよばれるものです。上のお皿になった底の部分に穴が開いていて、下の脚の表面にも3個ほどの穴があるのが特徴です。

その右にあるおなじようなかたちをした3点も、器台とおなじ使い方をしますが、三つを一組にして、その真ん中の空間に大形の土器を載せるように工夫されたもののようです。異形器台というむずかしい名前によばれています。

下の写真は、印西町向新田遺跡から発見された石製模造品です。これは加工しやすい滑



一本桜南遺跡の土器（古墳時代前期）



向新田遺跡の石製模造品（古墳時代前期）

石とよばれる石を、さまざまなかたちにまねて細工した装飾品のことです。左側は琴の弦を支える琴柱のかたちをまねたもので、みごとな細工がなされています。右側の2点は勾玉という飾りをまねてつくったものですが、実際に使ったのかもしれませんが。（及川）

お知らせ

当文化財センターでは、発掘調査をお手伝いいただける調査補助員を募集しています。ご希望の方は当文化財センターまでお問い合わせください。

また、この「房総の文化財」をご覧になってまちがいさがしの解答や、Q&Aにご質問がありましたら、当文化財センター事業課までお寄せください。

編集後記

みなさん、あけましておめでとうございます。第4号では、あらたな気分で当文化財センター理事長のあいさつからスタートしました。号をかさねて今回は古墳時代のくらしを中心におおくりします。

また今年の干支にちなんで「いぬ」のことも取りあげて、みなさんに親しまれるようがんばってまいります。（谷）

房総の文化財



長柄町横穴群徳増支群
第13号横穴墓

よみ 黄泉の国を見守る せん 線 刻 壁 画 せん 国 へ き が

平成 5 年 10 月に調査を実施した長生郡長柄町にある長柄町横穴群徳増支群の中の 1 基から、線で刻まれた壁画が発見されました。

この横穴墓は、山の斜面に横穴をあけて死者を葬る古墳の一種で、古墳時代に造られたものです。長生郡一帯は、全国的に見ても造りの立派な横穴墓が多いことで知られています。写真の線刻壁画は、横穴の突き当たりの奥壁に描かれたもので、左から人物(顔)・水

鳥・建物などがあり、右側には三角形の建物とその中に人物が見えます。絵の描き方はやや雑然としていますが、これだけ多くの種類の絵が描かれているのは大変珍しいことです。

さらに、写真の両脇の壁(左右壁)にも波状の線・船・水鳥・人物・建物などの生前にちなんだ景色が取り囲むように描かれており死後の世界をやさしく見守っている様子がうかがわれます。(加藤)

発掘調



カマドの近くから出土した土器
(奈良・平安時代)

ツクの石器群が見つかりました。

また、縄文時代後～晩期の遺物包含層からは、石鏃（矢じり）の製作跡を思わせる多量の未製品が出土しました。（白鳥）



環状ブロックの石器群
(旧石器時代)

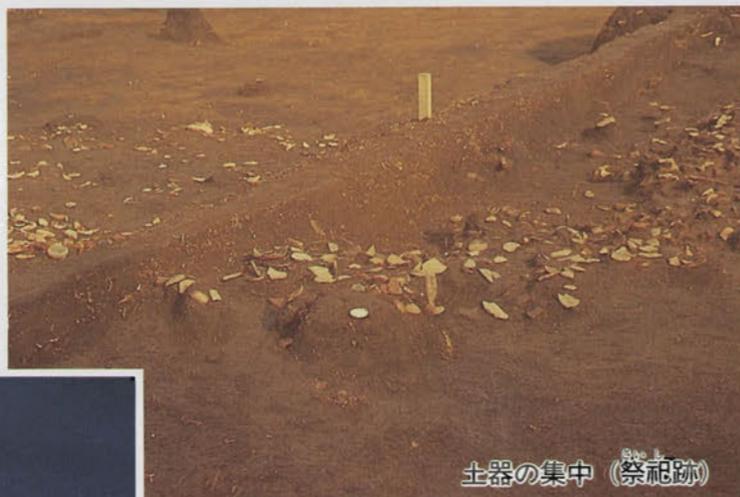
四街道市小屋ノ内遺跡

四街道市物井の台地上にある遺跡です。平成元年から調査が行われ、旧石器時代～中・近世にわたり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが発見されています。

とくに旧石器時代においては直径約40mにもおよぶ環状プロ

奈良時代のお祭り跡

千葉市中央区生実町にある種ヶ谷津遺跡は、古墳時代（6～7世紀）を中心とした大きなムラの跡ですが、今回の調査では8世紀中頃～後半とみられるお祭りの跡が発見されました。それは遺跡北側の谷に面した斜



土器の集中（祭祀跡）

面にあり、儀式用の小さな鏡（佐波里という銅と鉛の合金で作ったペンダント）・奈良三彩の小壺などと共に、非常に多くの土器が集中的に出土しました。（百瀬）



奈良三彩（フタ2点と小壺片）

査速報

印西町南西ヶ作遺跡

遺跡は、ニュータウン中央駅から少し東へ行った所にあります。調査では、平安時代の住居跡（9世紀前半）が約20軒発見されました。



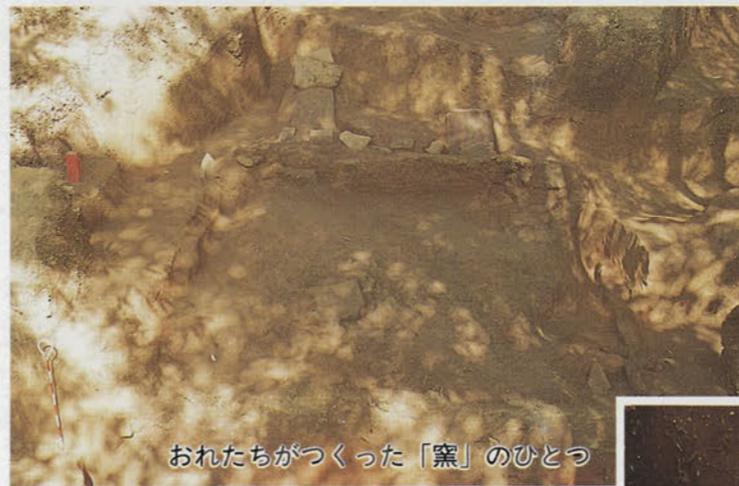
瓦の出土状況



瓦が出た竪穴住居跡

このうちの2軒から、古代の瓦が1枚ずつ見つかりました。この瓦は、奈良時代に造られた寺（大塚前遺跡）に使われていた瓦と似ています。1kmの道のりを当時の人が大切に運んでいることが想像されます。何のために拾ってきたのでしょうか。

（及川）



おれたちがつくった「窯」のひとつ

てよ、という命令が出された。おれたちの仕事は、「窯」をつくり、寺の屋根に葺く瓦を焼くことだ。瓦を焼くには、材料の粘土や薪・水などがたくさん必要で、ここは川にも近く、焼きあがった瓦は舟で運べるので、いい場所のひとつなんだ。

（田形）

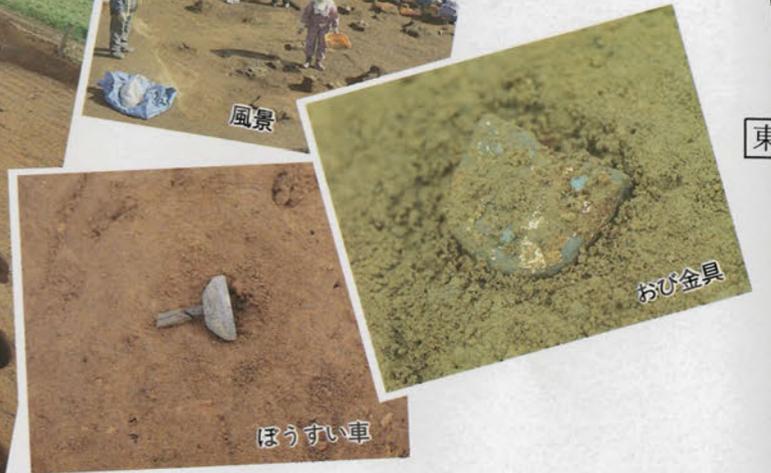
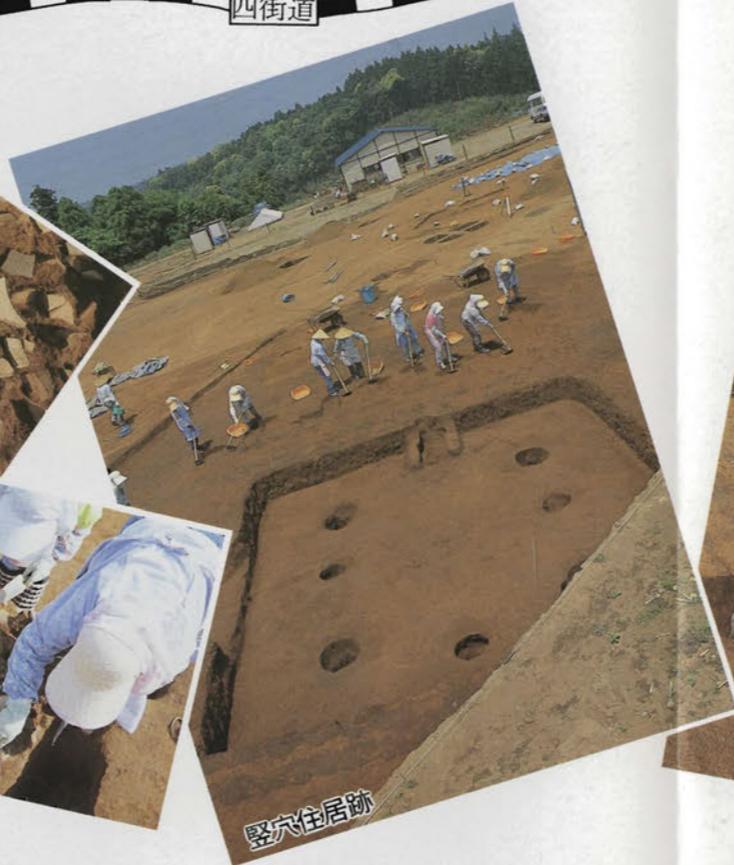
瓦職人の「ひとりごと」-市原市川焼瓦窯跡-

おれたちは、奈良の都から上総国にきた瓦職人だ。今度、各地の国の中心地に「国の寺」である国分（僧）寺・国分尼寺のふたつを建



できが悪く、捨ててしまった瓦

古代のムラ栗焼棒遺跡



JR総武本線の下り電車(千葉発銚子行き)が日向駅を走り出し、ゆるやかなカーブを曲がり、成東の街が見え始めたころ、電車の左窓に広がる山の上にある遺跡が栗焼棒遺跡です。山武杉がまわりをとりかこみ、電車の窓から見ることはできませんが、今日は、写真で栗焼棒遺跡をのぞいて見ましょう。

中央左の写真は、今から1,300年ぐらい前(古墳時代後期)の住居のあとです。ここからは、たくさんの住居のあとが発見されまし

た。かたくしまった床の下からは、柱穴が見つかり、建て替えが行われたことが分かりました。住居の建て替えは、古い家を広く造りかえたもので、中心から四方に広がるものや一方の隅を基準に拡張するもの、カマドや入り口を基準に広げたものなどさまざまです。すべて、小さな住居を大きくしていることから家族が増えることによって、家を造りかえたのかもしれない。この住居も三度の建て替えによって、写真のような大きさになった

ことが分かりました。

中央右の写真は、掘立柱建物のあとです。補助員さんたちの入っている穴(柱穴)に柱を立てて、現在でも見られるような建物が建っていました。梁行3間(写真の左右の柱の間の数)、桁行9間(写真の上下方向の柱の間の数)が1棟確認されました。また、梁行4間×桁行10間の掘立柱建物も見つかり、今から1,250年ぐらい前(奈良時代)の役所の建物であったのかもしれない。

そのほか、ここからは、旧石器時代の石器群・平安時代の竪穴住居跡・中世の溝・江戸時代の塚などが発見されました。また、この周辺には駄ノ塚古墳など古墳群が数多くあります。

もし、JR総武本線の車窓から栗焼棒遺跡のある台地を見る機会があったら、ここに住んでいた人たちの生活を想像し、古代のロマンにひたってください。(半澤)

埋蔵文化財アラカルト

シリーズ 住まいの移り変わり 第5回 古代

古代（奈良・平安時代）に入ると、人々の住む家はそれまでと同じような**竪穴住居**のほかに、**掘立柱建物**という住居が登場します。これは竪穴住居のように地面を掘り窪めずに柱だけ地中に埋めて作るタイプのものです。住居としてだけでなく、倉庫などにも利用されていました。掘立柱建物には高床の建物と地面をそのまま床にした建物があったようです。下の絵を見ていただくとわかるように、住まいの形態はより現在に近づいているようですね。

これまでは、竪穴という限られた空間の中



掘立柱建物跡

に柱を立て、屋根を葺いていました。しかし掘立柱建物の建て方ですと、柱の数や配置・太さを変えることによって、ある程度自由に家の大きさや形を作ることができるようになります。当時の都、平城京（現在の奈良市）では一辺が1.5mにもおよぶ柱穴も見つかっています。

一方の竪穴住居ですが、縄文時代以来長い間続いた歴史も平安時代になると急速に衰え小型化してしまいます。こうした竪穴住居は一辺が2mほどしかなく、カマドも小さく、床が軟らかく、柱穴が見つからないものが多いようです。上には、テントのように屋根を掛けていたのかもしれませんが。（立和名）



竪穴住居跡

まちがいさがし



（絵 横山）

前号の解答



カマドが壁から離れているのがまちがいでした。カマドは壁にくっついていて、煙出しの穴が屋外に出るのがふつうです。（萩原）

Q & A

1. 炉とカマドは、どちらがうの？

炉は煮炊きの他に暖房や照明といった役目も兼ね、縄文のむかしから家のなかにはありました。カマドは壁際に囲いを作り、熱が逃げないように、また屋外に煙を出すよう工夫して煮炊き専用となりました。これは朝鮮半島から伝わった技術で、1,550年前に全国に広まりました。その後いろいろ形をかえてきましたが、いまでは古い家で囲炉裏やレンガ造りの竈を見かけるだけになってしまいました。

（谷）



① 台所のまわりのようす



② 真っ赤に焼けた内部



③ 煙突の掘り込み

流山市上貝塚遺跡 5号住居跡（古墳時代後期 -1,400年前-）

3. 黒曜石とは、どんな石ですか？

若者は、山で拾ってきた黒い石をほかの石でたたいてみた。パーン！黒い石が割れてかけらがあたりに飛び散った。

「いたーっ！」若者は、いっしゅん自分の手をおさえた。

「どうした！」まわりにいた彼の仲間がかけてきた。

「おお！血だ。手にけがをしているぞ。早く手当をしないとたいへんだ。」

「いや、たいしたことはない。それよりも見ろ、この石を！これは、すばらしい切れあじだ。ちょっとふれただけで、おれの指がこんなに切れたんだぞ。」

手にけがをした若者は、あらためて黒い石を仲間にかざした。

2. カマドって、どのように作るの？

煙突の取り付け方によって形が違いますが写真の例では煙突の部分だけ住居の壁を四角に掘り込みます⁽³⁾。つぎに砂を混ぜた粘土で煙突の手前に高さ30cmほどの「ハ」字の囲いを作り、上にも粘土を貼って、そのまんまに丸い掛け口を開ければできあがりです⁽²⁾。なんとなく洋式トイレみたいなかっこうです。カマドの廻りには鍋釜・蒸籠やお椀などが残っていて、当時の台所のようなすがよくわかりますね⁽¹⁾。

（谷）

「いままでおれたちは、この石のことを知らなかった。だが、この石を使えば、いまよりもっと切れあじのいい道具ができるぞ。」

仲間たちは、ふしぎそうな目で、その黒い石をくいいるように見つめるのだった…」

黒曜石は、火山の噴火が造りだした天然のガラスです。このような事件があって、石器の材料として使われたのでしょうか。（落合）



収蔵遺物コーナー

今回紹介する遺物は、千葉市緑区土気^{とけひがし}の東大野^{おおの}第3遺跡から出土した「ペンダント」です。長さ4.2cm、幅2.6cm、厚さ0.7cmで、穴が2か所あります。下端は、割れて再加工したようです。約50cm離れたところから管玉^{くだたま}も出土しました。この遺跡からは、縄文時代の竪穴住居跡と土器片を出土しており、「ペンダント」もこの時代の物と思われます。縄文時代の「ペンダント」は大変珍しいもので、近くにお墓でもあったのでしょうか。（相京）



楽しい体験発掘

平成5年7月30日(金)に千葉県立千葉^{ちやう}聾学校の児童6名と引率の先生5名・保護者10名の計21名が伯父名台^{おじなだい}遺跡で体験発掘をしました。当日は、とても暑く、しかも好天が続いていたため、土がだいぶかたくなっていたのですが、みなさん、とても熱心に住居跡と溝の発掘に取り組みました。午後からは、千葉調査事務所^{ちやう}で整理作業のようすを見学した後、実際に土器の復元作業も体験しました。多少なりとも、埋蔵文化財について理解してもらえたのではないかと思います。（菅原）



千葉市伯父名台遺跡

お知らせ

創立20周年記念事業

当文化財センターは、今年で創立20周年を迎えることになりました。そこで、記念事業として記念講演会・出土遺物展を計画しています。ふるってご参加ください。

記念講演会 期日：平成7年2月10日(金)

場所：千葉県教育会館

出土遺物展 期日：平成6年11月12日(金)～20日(日)

〈ただし、14日(月)は休館日〉

場所：成田市中央公民館

編集後記

おかげさまで、当文化財センターも今年で創立20周年を迎えることができました。年を重ねるごとに充実し、貴重な遺跡が発見されました。さらに、本誌もみなさんに愛されるようがんばってまいります。（横山）